

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【中尾小】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	全体的には基礎的・基本的な知識・技能の定着が図れた。しかし、個人差が大きいため個別に支援を講じていく必要がある。「ドリルパーク」等の、個別に蓄積されたデータを効果的に活かしていきたい。また、第5学年の国語では漢字の問題において高い正答率がみられたため、今後も反復・習熟に取り組み、R7年度の全国学力・学習状況調査等で引き続き状況を検証していきたい。
思考・判断・表現	これまで以上にICT機器の活用を推進し、オウリンクプラスや共同編集等で、自分の考えを表現する機会の確保に努める。話し合う活動も十分に確保していく。また、第5学年の国語では「話すこと・聞くこと」の問題において高い正答率がみられたため、今後も「話すこと・聞くこと」の単元以外でも友達とのコミュニケーション活動を意図的に設定するなどし、R7年度の全国学力・学習状況調査等で引き続き状況を検証していきたい。

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	【学習上の課題】 算数「数と計算」において、平均正答率が6割に満たない。 【指導上の課題】 児童が反復・習熟に取り組む時間の設定が不十分である。	⇒ 「ドリルパーク」やドリル教材等を活用する時間を設定し、基本的な計算等の反復・習熟に取り組めるようにする。【毎日】
思考・判断・表現	【学習上の課題】 国語・算数の「思考・判断・表現」の記述式問題の無回答率が高い。 【指導上の課題】 自分の考えを表現する時間の設定が不十分である。	⇒ 学習の中でICT機器を活用し、オウリンクやムーブノート、共同編集等を通して、自分の考えを表現できるようにする。また、話し合う活動を意図的・計画的に設定し、自分の考えを表現する時間を十分に確保する。 【R6年度さいたま市学習状況調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が90%以上】

全国学力・学習状況調査
<小6・中3>(4月~5月)

⑤	評価(※)	授業改善策の達成状況
知識・技能	B	①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③中間期報告 ④中間期見直し ⑤調査結果分析(7~8月) ⑥結果提供(7月) ⑦調査結果分析(7~8月) ⑧結果提供(7月) ⑨調査結果分析(7~8月) ⑩結果提供(7月) 毎日の授業の中で「ドリルパーク」やドリル教材等を活用する時間を設定したことで、基本的な計算等の反復・習熟を図ることができた。また、朝の時間を利用して月に1回「タブレットタイム」を設け、ドリルパーク等を活用することができた。
思考・判断・表現	A	自分の考えを表現する活動や、友達と話し合う活動を多く設定することができた。R6年度さいたま市学習状況調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合は平均して94%であり、取り組んだ成果が表れている。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語の「我が国の言語文化に関する事項」において課題がみられた。解答類型を見てみると、日常的に読書に親しむことのよさへの気付きが不十分であると考えられる。また、算数の「図形」領域において課題がみられた。解答類型を見てみると、直方体の見取り図や円柱の展開図についての理解が不十分であると考えられる。
思考・判断・表現	国語の「読むこと」において課題がみられた。解答類型を見てみると、人物像や物語の全体像を想像することができていないと考えられる。算数の「データの活用」において課題がみられた。解答類型を見てみると、問題文に応じてグラフや表から必要な情報を読み取ることができていないと考えられる。

①結果分析(管理職・学年主任等)
②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語「言葉の特徴や使い方に関する事項」の正答率が低く、特に文の中の主語と述語の関係を理解する問題に課題がみられた。文に出てくる言葉の意味や関係性を考える活動を大切にしていく。 算数「数と計算」の正答率が低く、特に小数の計算問題や四則の混合した計算問題に課題がみられた。小数が含まれる計算の方法や、四則が混合した計算の方法等を丁寧に指導していきたい。
思考・判断・表現	国語「話すこと・聞くこと」の正答率が低く、特に意見の共通点や相違点に着目して考えをまとめる問題に課題がみられた。複数の物を比べたりつなげたりして考える活動を大切にしていきたい。 算数「データの活用」の正答率が低く、特に表やデータの内容を読み取る問題に課題がみられた。グラフの見方や、変化の様子や特徴を正しく読み取ることを丁寧に指導していきたい。

③	中間期報告	中間期見直し	
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	ほぼ毎日、授業や家庭学習において、「ドリルパーク」やドリル教材等を活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組むことができた。活用頻度をさらに高めていきたい。	変更なし
思考・判断・表現	B	ICT機器の活用や話し合い活動の意図的・計画的な設定により、自分の考えを表現する活動を確保することができた。ただし、学年によって回数や頻度に差があるため、改善していけるようにしたい。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)